



中村 尚 (NAKAMURA Hisashi)

東京大学先端科学技術研究センター 教授

東北大学理学部卒業、
同大学院理学研究科修士課程修了。
ワシントン大学大学院博士課程修了。
Ph.D. (大気科学)。

ワシントン大学・プリンストン大学客員研究員、東京大学大学院理学系研究科助手、助教授 (准教授)、教授を経て、2011 年より現職。海洋研究開発機構招聘上席研究員を兼務。

専門は、異常気象・気候変動・大気海洋相互作用。特に、亜熱帯・中高緯度域の大気循環の形成と自然変動、異常気象・極端現象をもたらす大気循環異常、それらに関わる大気海洋 (海氷) 相互作用の役割に関する解析的・数値的研究を推進。中でも、文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「中緯度海洋と気候 (略称)」(2010~2014 年度) の領域代表として、従来顧みられなかった中緯度・亜熱帯の海洋が大気循環や雲・降水系の形成と変動に果たす役割の解明を推進。また、地球温暖化に伴う大気・海洋の自然変動の変調や、自然変動の存在により気候系の将来予測にもたらされる不確実性に関する研究も手がけている。これらに関する論文多数。主な著書 (いずれも共著) には、「日本の四季のなくなる日~連鎖する異常気象~」(小学館新書 2015)、「もういちど読む数研の高校地学」(数研出版 2014) など。また、異常気象に関する TV や新聞・雑誌での解説も多数。

日本学術会議第 22 期連携会員を経て、現在第 23 期第三部会員。その他、気象庁異常気象分析検討会会長代理、日本気象学会理事、日本地球惑星科学連合サイエンスアドバイザーボード委員、国際気象学・大気科学協会日本代表委員、米国気象学会専門誌編集委員、スウェーデン気象学専門誌編集顧問などを務める。

日本気象学会山本・正野論文賞 (1994)、太平洋海洋科学機構総会最優秀講演賞 (1998)、日本気象学会賞 (2004) を受賞。